

えいち
「H」……それは“英知”すぐれた知恵であり、“叡智”深遠な道理をさとるうの優れた才知でもある。生涯学習のある暮らし、そんな広島の“H(えいち)”をお届けするコーナー。今回は、県立広島大学地域連携センター長を務める野原建一さんにお話を伺いました。

Eイチ・キャンパス

H Campus



野原建一 地域連携センター長

——地域連携センターが発足したきっかけを教えてください
今年4月、県立3大学(県立広島女子大学、広島県立保健福祉大学、広島県立大学)が再編統合したことを機会に、今まで以上に県立大学として「地域で活躍できる人材の育成」や「地域の課題解決」に貢献したいと考えました。そこで産業・教育研究機関・行政が協力しあえる同センターをつくったのです。

——具体的には、どのようなことを入れていくのですか
地域の方々を対象とした生涯学習や産学官連携などです。生涯学習には、特に重点を置いています。これまでの「学ぶだけ」という一方通行ではなく、学んだ知識を地域に還元していけるような学習を提供していく予定です。

また、地域連携センターは、産業・教育研究機関・行政・一般市民の4者が連携するにあつてのコーディネーター(調整役)を務めます。
こうした取り組みが実施できるのは、県立広島大学が再編される以前から、それぞれの大学が地域に根ざした生涯学習を目指してきたからです。地域住民と大学側との信頼関係がし

「新しい形のまちづくり」をめざして

県立広島大学

地域連携センターの展望

つかり築かれているからこそ、新しい形での地域貢献が行っていると確信しています。

——「新しい形での地域貢献」とは、例えばどのようなものですか
昨年の9月～10月にかけて、庄原の広島県立大学において「男女共同参画」に関する公開講座が実施されました。この講座は庄原市の公民館から要請を受けて行われ、地域住民の思いに大学側が応えた意義のあるものとなりました。また、提案者と大学が共同して地域課題の解決を図る「地域課題解決の研究課題」を県立広島大学で公募するなど、さらに進んだ試み

——地域連携センターは、広島市民にとつてどのような存在になっていくのでしょうか
地域の「相談役」としての役割を担ってきたいですね。

これからは、少子高齢化が進んでいく時代です。子育てしやすく、高齢者が暮らしやすい社会をめざしていかなければなりません。そのためには、市民一人一人が住んでいて楽しい「まちづくり」を推進していくべきだと考えています。「地域に根ざした、市民に信頼される地域連携センター」が大きな目標です。



広島県立大学にて行われた公開講座「ともに輝く21世紀～女と男がつくる社会～」の授業風景

Information
県立広島大学 地域連携センター
〒734-8558 広島市南区宇品東1丁目1-71
TEL 082-251-9534 (代) FAX 082-251-9405
E-mail renkei@pu-hiroshima.ac.jp

Hキャン レポート

社会人のための大学活用フェア '05を開催しました

7月1日(金)～3日(日)の3日間、まちづくり市民交流プラザの4階ギャラリーなどで、社会人のための大学活用フェア'05が開催されました。4回目となる今年のフェアのキャッチフレーズは「驚き! 学びの底力」で、主なプログラムとして、社会人学生によるフォーラム「学習を支えるスキルを考える」や、「OB・OGなんでも相談会」などが行われました。

フォーラムでは、現役の社会人学生4名が、入学以前からさまざまなスキルを駆使して学習していることを話しました。大学入学希望者や大学の教員も参加し、社会人学生について理解する良い機会にもなり、社会人学生の学ぶ環境がよくなることを予感できるフォーラムとなりました。社会人学生による「なんでも相談会」では、相談員が親身になって話を聞き、アドバイスしていました。その他、地域と大学の連携事例



フォーラム「学習を支えるスキルを考える」

の紹介を展示コーナーで行ったり、エルネット「オープンカレッジ」の試聴などを行いました。そのなかでも公開講座「音楽療法入門」には多くの参加があり、体験後はとても心をいやされた様子でした。
なお、社会人入試など広島県内の大学の情報については、引き続き市民交流プラザの1階情報コーナーに資料を展示していますので、お気軽にご覧ください。

講座案内

市民スタッフの企画による
県立広島大学公開講座
「動き出せ! 楽しんでる私が見えてくる」
「コミュニケーションを学ぼう」
講座受講生募集
▼内容「コミュニケーションする力を高めることを目指す講座です」
▼期間 11月6日～27日の
毎週日曜日、午後1時30分～3時30分(全4回)
▼会場 11月6日～27日の
毎週日曜日、午後1時30分～3時30分(全4回)

▼会場 11月6日～27日の
毎週日曜日、午後1時30分～3時30分(全4回)
▼定員 20人(先着順) ▼対象 18歳以上(高校生世代を除く)
▼参加費 2000円
▼申込・問合せ 同プラザ
(10月1日から募集開始)
※内容については、変更となる場合があります。

「シティカレッジ」受講者募集

▼内容 11月6日～27日の
毎週日曜日、午後1時30分～3時30分(全4回)
▼会場 11月6日～27日の
毎週日曜日、午後1時30分～3時30分(全4回)
▼定員 20人(先着順) ▼対象 18歳以上(高校生世代を除く)
▼参加費 2000円
▼申込・問合せ 同プラザ
(10月1日から募集開始)
※内容については、変更となる場合があります。

▼問合せ 同プラザ
まちづくり市民交流プラザ
シティカレッジ係宛
〒730-0036
広島市中区袋町6-36

シティカレッジ

大学名	エリザベト音楽大学	教育ネットワーク中国	近畿大学	近畿大学	広島国際大学	広島国際大学	広島経済大学
講座名	グレゴリオ聖歌の世界	わくわく就活～就職活動支援講座～	3秒で話せる英会話	映画にみるアメリカ～大団と先住民の歴史～	情報通信の世界を知ろう	住まいと環境	リスク社会におけるビジネスを考える
日時	9/30 10/7・14・21・28 (毎週金曜日) 18:00～20:00	10/1・8・15・22・29 11/5・12・19・26 12/3・10 1/7・14 (毎週土曜日) 10:00～12:00	10/7・14・21・28 11/4・11・25 12/2 (毎週金曜日) 18:00～19:30	12/7・14・21 (毎週水曜日) 18:00～19:30	10/15・22・29 11/5・12 (毎週土曜日) 14:00～15:30	11/19・26 12/3・10 (毎週土曜日) 13:30～15:00	11/10・17・24 12/1 (毎週木曜日) 18:30～20:00
対象・定員	市民40人	市民30人	市民30人	市民100人	市民50人	市民40人	市民100人
受講料	2000円	13000円	無料	無料	無料	無料	無料

子どもたちに草履作りを教える古霜さん

ふるしも みとし
草履作り 古霜實年さん

人生の激変を乗り越えての市民活動

人材バンク登録への道

今年の7月23日、阿戸児童館で古霜實年さんによる草履作りの教室が開かれました。ボランティア人材バンクへの登録から3年、今回が古霜さんの初めての指導です。良い草履を作るのにはどうしたらよいのか試行錯誤を重ねてきた古霜さん。「技量が備わった時にお呼びがかかった。ちょうどいいタイミングです」と要約筆者とともに笑顔で指導を開始しました。

古霜さんが草履作りを始めたのは、小学生の時。「自分が履くものは自分で作るように」と親から作り方を教えてもらったのがきっかけでした。その後「手に職をつ

けたら生活が安定するだろう」と建具職人の道に進み、結婚して子どもや孫にも恵まれましたが、60歳の時、人生の転機を迎えます。突発性難聴という病のため聴力を失ってしまったのです。突然音が聞こえなくなり、どう生活してい

けばいいか分からず戸惑う日々。そんな時「中途失聴者・難聴者協会」と出会い、同じ障害のある人たちと接することで励まされたとあります。やがて同協会の部長として活躍、定期的に開催する講演会の講師を探してまちづくり市民交流プラザを訪れた際に「ボランティア人材バンク」を知り、自分でも何かできるのではと考えた

結果、昔覚えた草履づくりで登録するに至りました。



近所の人たちに指導する古霜さん

平成風草履作り

今回の児童館での講習に先立ち、6月27日に近所の婦人会4人と一緒に草履作りをしました。現在は材料のワラがなかなか手に入らないため、荷づくり用のビニールひもと5cm幅の古布を材料として使います。布製は暖かいし洗うこともできるので好評なんだとか。「だんだんと形になるのが楽しい」「肌触りがいいね」とみんな和気あいいで編み進めていました。ちよつとデコボコになったら先生の出番。魔法の手にかかるとたちまち滑らかに。たとえ縦横の幅が思い通りならなくても、それが手作りのいいところです。

草履を作ることで、少しでも自信を持つてくれること」。もう1つは「私との出会いから、聴覚障害者への抵抗を少しでもなくしてもらうこと」です。そのほか古霜さんは、幼稚園にドングリで作ったおもちゃを持って行ったり、小学校で自分の体験を話したりするなど、積極的に地域の子どもたちと関わる活動をしています。様々な経験を経てなお「会う人みんないい人」と穏やかな笑顔で話す姿に、子どもたちをはじめ周囲の人たちは、大きな影響を受けているようでした。



手作りの草履はカラフルで温かみのある仕上がりです

こまの楽しさを次世代に伝えたい

「ちよんがけ」に惹かれて

「こま回しの面白さというのは」と生き生きと語る中島昭雄さんですが、こまに興味を持ったのは意外と最近で、今から8年ほど前なんだとか。両手に持ったひもの上でこまを自在に転がしながら空中で回す「ちよんがけ」と呼ばれる技を見た時、「これはすごい」と感動。以来自分もやってみたいとこま回しに挑戦するうちに、その面白さに引き込まれていったそうです。今ではその腕前は、幼稚園や児童館・公民館などで実演と指導をするまでになりました。

「回すこま」と「見せるこま」

中島さんには、数多くのこまのコレクションがあります。こまは回して遊ぶものという常識を見事に覆してくれるのが、「江戸こま」とも呼ばれる「からくりこま」です。その中の一つに、にわとりの絵が描かれたにわとりこまがあります。見た目は普通のこまですが、回してみるとこまが2つに分かれて、その中から小さな卵型のこま



ペーゴマ、江戸こま、手作りこま。コレクションの一部です

回し方を知らない親世代

中島さんが近年感じるのは、遊び盛りの子どもを持つ親世代や教師たち大人も、こま遊びに親しんだ経験がないということ。指導の際には、その日のうちに子どもたちが必ず回せるようにしてあげると同時に、親や教師にも回し方を教えることを心掛けています。最初の2回

もをかける、投げる時は象の鼻のように手をぶらぶらさせた状態にするといったちよつとしたコツを丁寧に説明して実演すると、たいいていの子どもは30分から2時間程度もあれば自分で回せるようになりますとか。「子どもの集中力はすごい」といつも感心するそうです。

なかじま あきお
こま回し 中島昭雄さん中島さんご夫婦。
妻の尚子さんもこまが
好きになりました

Information

●今回「達人図鑑」でご紹介している方々は、「ボランティア人材バンク」に登録されています。

●ボランティア人材バンクでは、「仕事や学習、趣味などで得たノウハウを生かして、ボランティアで依頼団体に助言や指導、さらには技の披露などを行う人」を登録しています。

紹介申込・登録申込などのお問い合わせは…
まちづくり市民交流プラザ

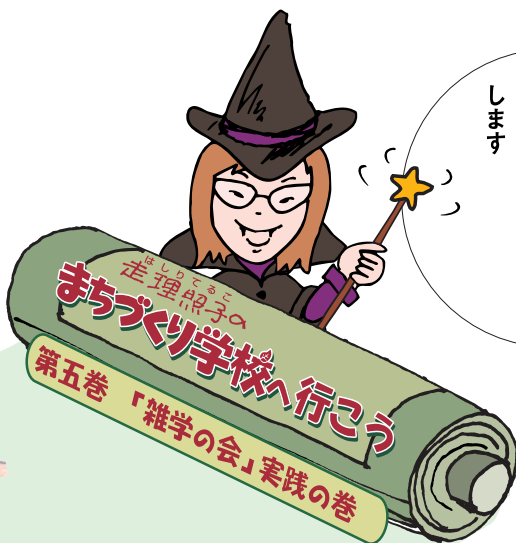
☎082-545-3911 ☎082-545-3838

伝統を知り人生を豊かに

こまの指導を通して、自分の中の遊び心が引き出され、子どもの笑顔を見ることが楽しみになったと中島さん。「明日もまた来る？」と、指導を受けた子どもたちに問いかけられるのがとてもうれしいといいます。妻の尚子さんも行くと、定年後はこまに関する歴史と伝統などを探求する旅を一緒にしてみたいのだとか。

「日本のこまほど良く回るものはないんですよ。子どもたちに伝統芸の素晴らしさを教えてあげたいですね」と中島さんは語ります。今後の人生を豊かに、そして次の世代に必ず伝えるという思いが、言葉の中にたくさん詰まっています。

今回は、「まちづくり学校・雑学の会」の活動についてご紹介いたします



受講生や講師、サポーターなどの有志で発足した「まちづくり学校・雑学の会」の活動について紹介します。この会では、まちづくりに関する情報交換やそれぞれの活動の相談をしています。また、団体や行政などからワークショップ（以下、WS）の依頼を受け、企画や運営にもかかわりました。今回はその実践の中からWSを企画するときのポイントを紹介いたします。

依頼者の思いをくみとる「カープとまちづくり」ワークショップ

学生たちの起業アイデアを生み出している「広島修道大学起業家精神養成講座」。その講座担当者からの依頼で、第9・10回（5月20日（金）、「カープとまちづくり」をテーマに、学生の「しゃべり場」としてWSを行いました。テーマが決まった段階で、カープファンでつくる市民団体「カープと市民球場はみんなの宝物」が協力団体として加わり、大学生が社会人と積極的に意見を交わす場を持つことで、多様な価値観を共有し、そこからアイデアを出すことを狙いました。テーマは、「どうすれば広島市民球場に観客が集まるか」に焦点を絞り、自分たちができることを出し合い、アイデアやプランにつなげました。

まずは、今日の狙いを頭に入れます



どんなことができるかを出し合いました

学生からは、オリジナルカープ弁当や修道大学自慢の人力車の活用、市民球場周辺の屋外生活者の雇用などさまざまなアイデアが飛び交いました。

この依頼を受けた時、既に「大学」「学生」「カープと市民球場はみんなの宝物」、3者の思いを引き出してつむぎあげる、というWSが始まっていたのです。今回は「学生が主役」に徹したため、3者の思いを十分引き出せたかについては反省の余地がありました。また、WSの技術を学ぶと、ともすれば「ファシリテーターは…あるべし」「WSは…でなければ」といった「WS道」を語りがちです。WSを企画する際、依頼者への押し付けにならないか、たであらうか？ WSが持っている楽しさや自由さを損なうものにならないか、たであらうか？ とふりかえっています。（宮本）

安芸地区社会福祉協議会（以下、社協）の依頼で、6月10日（金）、社協職員とボランティアを対象にした「ワークショップ研修会」を行いました。担当からの要望は、二つ目は、WSを体験し、ワークショップとは何か、どのように進めるのか、その手法を学びたいということ。二つ目は、講座参加者の意見・感想を引き出す手法を学びたいということでした。それら2つの要望を満たすため

①「ワークショップ」について（簡単な説明）、②参加者の意見・感想を引き出すような話し合いの場づくり（WSの演習）、③本日のメインテーマ（WSの解説）という流れで進めました。依頼者の2つの目的を1つのプログラムの中で合体させたのです。

研修会なので、最後にその解説に十分な時間をとり、WSを行う目的やその有効性、進め方、使用した手法（特性要因図等※ライブラリー参照）、ファシリテーターの役割などについて



「よい話し合いの場づくり」10箇条ができあがりました

ひろしままちづくり学校

まちづくり活動に参加している人・参加したい人集まれ！

●まちづくり活動を進めたい人のためのファシリテーター育成セミナー●

さまざまなまちづくり活動の場面で役立つファシリテーション技術を、3カ年にわたり継続してステップアップしていく講座です。



説明しました。

その結果、参加者からは「WSが理解できた」「ファシリテーターの意味がわかった」等の感想をいただきました。しかし、一方で、「カタカナ、専門用語がわかりにくかった」という感想もあり、平易な言葉でわかりやすくWSを語るための研鑽がまだまだ必要であると感じました。（北上）

参加者の思いを引き出す「大山峠を歩くワークショップ」

瀬野公民館の依頼で、「安芸区まちあるき」ボランティア養成講座」第3回（6月12日（日）の「ひろしま八区覧会・八区物館・安芸区まちあるき瀬野コース」大山峠を歩くワークショップ」を行いました。

「安芸区まちあるき」の成功を祈って、アイデアをバックに全員集合！



このWSは、初回講座「ボランティアの楽しみ方と心得」でのWS手法の講義が好評で、公民館から「WSをやりたい」という声があがり、雑学の会が運営をお手伝いすることになりました。

今回のWSの狙いは、実際に大山峠

第一期生 最終過程へ実践を通してスキルを身につける！

平成15年度（2003年度）から始まったまちづくり学校「ファシリテーター養成講座」も、基礎編、熟練編と経験を積み重ね、7月13日から実践編をスタートしています。

実践編は文字とおり実践の場を通してスキルを磨くため、3つの柱で進めています。熟練編で作成した「まちづくり宣言」をもとに受講生の活動を本格的に展開していくこと。そのため、まず現状を確認し、これからの活動や課題をどう解決していくかを議論する場を設けています。

さらに、情報や知識を得るために、実践事例や行政・地域コミュニティ・大学・企業現場などの現状を学ぶこと。現場で経験を積むために、あさみな

実践編での活動目標を発表



受講生をはじめ講師ともども実践の場があれば積極的に関わっていききたい！をモットーに頑張っています。

また、第二期生の熟練編も、いよいよ9月21日（水）から始まります。自分たちの活動を題材に模擬WSをしてお互いにフィードバックして学んでいきます。

WS等住民参加をファシリテートする機会がありましたらまちづくり市民交流プラザまでお声掛けください！



Hm²通信

ふむふむ

平成15年度からスタートした公益信託広島市まちづくり活動支援基金「ひと・まち広島未来づくりファンド Hm²」の助成事業は、広島市のまちづくりにつながる市民の皆さんの自主的な活動を応援する助成制度です。この基金の愛称「Hm²」は、“ひと(Hito)まち(Machi)広島(Hiroshima)未来づくり(Miraizukuri)ファンド”の頭文字(HMHM)をとって、みんなが“ふむふむ”と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。このHm²通信は、「Hm²」に関するさまざまな活動を、“応援する”“伝える”“広げる”をキーワードに共感を紡いでいくため、私たち“ふむふむサポートボランティア”、通称「HOT(ほっとびと)」の編集部がつくるコーナーです。

Vol.5
第2回成果発表
&
第3回公開審査会
の巻!



質問に旗揚げで答える来場者

第2回(平成16年度) 助成事業成果発表

■団体成果発表

5月14日まちづくり市民交流プラザで、ふむふむ第2回助成団体による「成果発表会」が開催されました。今回の発表会はテレビのトークショーのような設定で行われました。まず前方の大きなスクリーンにどの団体の活動かを連想させるようなキーワードが映し出され、その団体のメンバーが登場。ポスターの前でプレゼンテーション(発表)を行いました。ポスターに貼られたイベントや活動の写真、実際に使ったポスター、マップなどの成果物を示しながら、工夫した点、苦労した点などをまとめ、



HOTもはっぴ姿で審査会を盛り上げた

ドを作るといった、それぞれの活動への抱負が紹介されました。

引き続き、まちづくり活動発展助成部門の公開審査が行われました。応募31団体のうち、あらかじめ書類審査によって選ばれた17団体による、3分間のプレゼンテーション(発表)のあと運営委員による質疑応答がありました。スクリーンに活動現場の写真やビデオを映したり、大きな写真、パネルを使ったり、寸劇や歌などによるにぎやかな発表風景も見られました。休憩をはさんで、1次審査の結果発表がありました。その結果を踏まえて、プレゼンテーションで言い足りなかつたところを補足する「最後の二押し」で、各団体の活動のポイントを熱くアピールしました。

■初の重点分野助成は?

今回初めて設けられた重点分野助成部門では、応募6団体のうち3団体が公開審査に進みました。この部門は、広島市の社会的状況に鑑み、重点的に取り組むべき分野の活動を助成するもので、1団体1000

活動の様子を分かりやすく報告していきました。特に助成を受けたことで、「今までに使用できなかったような大きなホールを使い多くの人に参加してもらった」「スタッフの士気が上がりやる気になった」などの成果があったようです。

また、助成金を得ただけでなく、「ふむふむで知り合ったほかの団体と新たな連携が生まれた」、「新しい活動クラブができた」など、活動の広がりを感じさせる大変うれしい報告も聞かれました。

■もつと聞きタイム!

後半は「もつと聞きタイム」という質問や意見交換の場を持ちました。会場の皆さんからは活発な質問が多く寄せられました。「メンバー確保の秘訣は?」という質問に、「バスの車中にボランティア募集のチラシを貼らせてもらった」とか、「資金をどうやって集めるの?」という質問には、「ワンコイン募金を実施し、今後は自分たちの手で資金を調達していきたい」という頼もしい回答。また、「参加した学生の声は?」という質問に、「この貴重な体験



発表の様子

調達していきいたい」という頼もしい回答。また、「参加した学生の声は?」という質問に、「この貴重な体験

万円以内の助成を行うものです。重点という名のとおり、団体の発表も5分間、質疑応答も8分間あり、運営委員からは鋭い質問が次々と出ました。

最終審査の結果、発展部門12団体、重点部門1団体に助成が決定しました。

■「祭り」をテーマに

当日は、市民ボランティアグループHOT(ほっとびと)が中心となり、会場設営や運営を行いました。今回の審査会のテーマは「祭り」。司会者は浴衣に下駄、HOTはそろいのほっぴで会場の雰囲気盛り上げ、各団体はお囃子の音に合わせて入場し、太鼓の音の合図で発表を始めるなど、手づくりの演出で会場の緊張感を和らげました。



さあ! 最後の二押し

●団体育成助成部門<5団体・250千円>

団体名	助成額
わらべうたサークルあつぷぷ	50千円
黄金山桜の会	50千円
ちびちびジュニア	50千円
大塚ムーミンの会	50千円
三葉山の里づくり隊・シイどんくらぶ	50千円

●重点分野助成部門<1団体・700千円>

団体名	助成額
ヒロシマ平和映画祭実行委員会	700千円

●まちづくり活動発展団体助成部門<12団体・2,945千円>

団体名	助成額
可部山藪つむぎ同好会	250千円
2005 ART PARTY 実行委員会	193千円
CAQ(「街と人をつなぐ」ひろしま川通り活用委員会)	200千円
可部夢街道まちづくりの会	390千円
茶臼山を愛し復元する会	279千円
牛田商店街振興組合	165千円
カーブと市民球場はみんなの宝物	295千円
広島市観光アシスタント協会	222千円
HIROSHIMA TIME 実行委員会	288千円
プロジェクト武田山	160千円
草津まちづくりの会	203千円
湯来里山と触れ合う会	300千円

■今年度の助成決定団体と助成金額



司会者も浴衣姿で審査会を演出



各団体の発表ポスターが勢ぞろい!!